

# 旭福祉センター・第二旭福祉センター

## 令和4年度 事業計画書

※中期経営計画に基づいた令和4年度の単年度目標

### I. 利用者ニーズ起点による既存事業の安定経営

#### **【グループホーム】**

#### (1) 「グループホーム担当支援員・世話人の支援技術向上」

##### ① 世話人との意見交換会の実施

定例会を支援力強化も含めた会にグレードアップさせる内容について引き続き検討・実施するとともに、幹部や関係職員も出席することで、より一層の支援力向上と情報共有を目指す。

#### (2) : 「利用者の重度・高齢化対策」と「利用ニーズの増加」への対応

##### ① 旭センターグループ1つ目の包括介護型グループホームの体制確立

1つ目の包括型グループホームの安定運用に務めるとともに、2つ目の包括型の必要性について2023年度に検討に入る。

##### ② グループホーム（9つ目）の検討

旭センターグループとして9つ目のグループホームを2023年度に検討開始する。

#### **【入 所】**

#### (1) 「入所棟新設に伴う土地買収と建物新設」

##### ① 土地買収手続きの遂行

現在 折衝中である所有者との接触を仲介業者に依頼し、状況の把握と打開策を練る。

##### ② 入所棟新設に伴うシミュレーションの実施

入所・日中活動支援型グループホーム双方のシミュレーションを実施し、移行体系を検討する。

#### **【就労継続支援B型】**

#### (1) 「新規の作業・商品・利用者の開拓」

##### ① 新規事業の開拓と販路拡大・新商品の開発

新規事業の開拓と販路拡大は引き続き現状分析・情報収集を実施し、具体的な戦略を決める。また、新商品の開発については、2024年度の事業化(製品化)を目標に検討・議論をすすめる。(新商品開発チーム)

## ② 作業の質の向上

育成シートを活用した作業スキル向上の施策を実行し、今年度は特に運用管理を確実に行う。(作業委員会)

## ③ 機械化による高効率化

(昨年購入した)機器の導入による効率化の成果を検証する。予算化した機器の購入を行うとともに、ICTを活用した勤怠管理について今年度検討に入る。(幹部職員)

## ④ 新規利用者獲得

SNSを活用した情報発信を行い、特別支援学校向けに見学・体験会の実施と定期訪問により認知度向上を目指す。(取組みの発信)

## 【生活介護】

### (1) 「利用者の重度・高齢化に合わせた支援やプログラムの提供」

#### ① 先進的な他施設の訪問計画及び、情報収集

今年度も施設見学を計画・実施し、活かせる知識・技術を持ち帰り検討。生活介護班内で支援技術の向上を図る。

#### ② 介護プログラムの確立：音楽療法カリキュラムの知識・技術伝承

前年度に実施した音楽療法カリキュラムの情報を基に、今後の音楽療法のあり方について検討する。

#### ③ 新規創作作品の開発・販売

新規創作作品の原材料となる作品の製作及び情報収集は継続して実施し、今年度はその中から作品の絞り込みを行い、商品化する作品を決定する。

## 【就労移行】

### (1) 「認知度向上・就労移行カリキュラムの充実・就労機会の確保」

#### ① 就労移行事業のアピール強化による新規利用者の獲得

SNSを活用した情報発信を行い、特別支援学校向けに見学・体験会の実施と定期訪問により認知度向上を目指す。

#### ② 就労カリキュラムと就労支援員の育成

先進的な他事業所への見学・研修を実施し、今後の方向性を探るとともに、新しい就労カリキュラムを完成させる。

#### ③ 実習先の確保と就労先への定期的な訪問

幅広い利用者が実習できるよう多種多様な企業の情報収集を行い、新しい実習

先を選定する。また、既存の就労先へは具体的な訪問計画を立て、実行する。

## Ⅱ. 人が育つ組織づくり

### (1) 「職員定着プロジェクト」の立ち上げ

#### ① 組織風土診断や定着者・退職者の分析

より良い職場環境をつくるために具体的な情報収集を行う。

職員の満足要因・不満足因子を分析した上で、効果的な具体策を検討する。

特に今年度は、定着職員の満足要因を整理し、より満足感を高める職場環境構築を進める。組織診断については、毎年実施することで、経年比較を行い施策の有効性を検証する。

#### ② 管理職と職員の対話を促進

課長・主任クラスの管理職が部下との面談を行うことで、業務への不安や不満などを早い段階から把握し、組織全体に働きかけながら解消方法を模索する。令和3年度に実施した「対話力向上研修」で学んだことをヒントに、新任職員を中心に面談を実施する。

### (2) 「ONE TEAMプロジェクト」の立ち上げ

#### ① 職員同士の対話を促進

「自分たちの仕事のやりがいは自分たちでみつけ、作り上げていく」

このような取り組みの一步目として「ファシリテーターの育成」を進める。

自分達の日々の支援について、互いに率直に意見交換をできる機会を創るために、ディスカッションを活性化させるスキル・仕組みを構築する。

#### ② 役職ごとの役割定義策定と職員への浸透

各役職（課長・主任・チーフ等）ごとに期待されている役割を明確に設定し、各階層の職員がそれぞれ然るべき業務・役割を遂行できる体制を確立する。そのために、まずは現在の等級制度の定義を見直し、実態に沿った制度へ改定する。

## Ⅲ. 計画的な新規事業の創造

### (1) ネット販売プロジェクト

旭福祉センターグループでのネット販売を2023～2024年度までに開始できるよう、今年度については現状分析と情報収集を更に深掘りし、プラットフォームを選定することを目標とする。（ネット販売プロジェクトチーム）

## (2) 新店舗立ち上げプロジェクト

Café NODOKA・ベーカリー楓 設立時の基本コンセプト「我々が持っているポテンシャルを活かし、更に発展させる」というテーマに続く次のコンセプト「社会と繋がる。そして発信する」を基本コンセプトとして、新店舗の立ち上げの具体的な検討に入る。（新店舗プロジェクトチーム）

### 各委員会の重点目標

	委員会名	2022年度 重点目標
1	支 援	・書類作成期限の徹底      ・加算請求チェックの徹底
2	生 活	・役割分担の徹底      ・生活環境改善のための意識向上
3	作 業	・作業環境整備の推進      ・各作業班製販計画の達成
4	地 域	・各バザーフロー表に基づいた計画の実行とフィードバック
5	事 務	・業務効率化の推進 ・円滑な連携(各部署、事務所内)の遂行
6	炊 事	・利用者のニーズと個々への対応      ・衛生管理の徹底
7	職場改善①	・働きやすい職場環境の推進      ・職員研修の実施
8	職場改善②	・年間目標の確実な実施      ・職員育成体制の充実 ・職員必携の活用
9	人権擁護	・年間計画の確実な実施      ・情報共有の徹底
10	地域貢献	・地域との深い関わりの継続
11	行 事 A	・行事計画の早期立案、フロー作成      ・明確な役割分担
12	行 事 B	・年間行事の把握と早期立案      ・話し合いの効率化
13	行 事 C	・行事のフロー再確認      ・早期計画、早期周知の徹底
14	入所・GH旅行	・利用者が楽しめる企画の立案 ・早期準備、計画、話し合いの実施
15	広 報	・計画の確実な実行      ・情報発信の向上
16	総 務	・明るく働きやすい職場環境作り ・連続休暇取得(4日)の推進と確認

各作業班の重点目標

作業班別	2022年度 重点目標	2022年度 目標額
NODOKA	・集客率アップ ・料理開発 ・接客サービス向上	7,150,000
楓(菓子班)	・人材育成 ・利用者新商品の確立 ・ブランド強化の確立	18,380,000
竹工	・人材育成 ・職員のマルチスキル化 ・利用者の適材適所推進	2,750,000
蔬菜	・人材育成 ・栽培工程のマニュアル化 ・地域住民との交流	4,880,000
陶芸	・売上達成 ・絵付作業の人材育成	700,000
施設外就労(公園 清掃・山川)	・利用者支援の強化 ・関係機関との連携強化	1,520,000
メンテナンス	・作業フロー作成 ・研修カリキュラム確立 ・作業メンバーの育成	23,600,000
味噌	・味噌作りの人材育成 ・生産、行事等への早期計画	1,340,000
生活介護	・支援技術の向上 ・新規創作作品の決定 ・今後の音楽活動の検討	90,000
合 計	・	60,410,000

令和4年度 事業計画 以上